

年間指導計画表

教科・科目	数学・数学演習β	単位数	3
		学科・学年・学級	普通科・創造表現コース 3学年

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	数と式，図形と計量，二次関数及びデータの分析について理解させ，基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り，事象を数学的に考察する能力を培い，数学のよさを認識できるようにするとともに，それらを活用する態度を育てる。
使用教科書・副教材等	高等学校 数学A(数研出版) 短期攻略 センター数学Ⅰ・A 改訂版 一基礎編一(駿台文庫) オリジナルプリント

2 評価の観点等

観点	趣旨	評価方法	配分
a. 関心・意欲・態度	数学ⅠAの各分野の考え方に関心をもつとともに，数学のよさを認識し，それらを事象の考察に活用して数学的な考え方に基づいて判断しようとする。	観察、課題、小テスト等	10%
b. 数学的な見方や考え方	数学ⅠAの各分野において，事象を数学的に考察し表現したり，思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して，数学的な見方や考え方を身に付けている。	観察、定期考査、実力テスト等	20%
c. 数学的な技能	数学ⅠAの各分野において，事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。	観察、定期考査、実力テスト等	10%
d. 知識・理解	数学ⅠAの各分野における基本的な概念、原理・法則などを理解し，知識を身に付けている。	観察、定期考査、実力テスト等	60%

3 学習計画

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点			
					a	b	c	d
前期	4	10	2次関数	・2次関数とそのグラフについて理解し，2次関数を用いて数量の関係や変化を表現することの有用性を認識するとともに，それらを事象の考察に活用できるようにする。 ・三角比の意味やその基本的な性質について理解し，三角比を用いた計量の考えの有用性を認識するとともに，それらを事象の考察に活用できるようにする。 ・場合の数を求めるときの基本的な考え方や確率についての理解を深め，それらを事象の考察に活用できるようにする。 ・平面図形や空間図形の性質についての理解を深め，それらを事象の考察に活用できるようにする。	○	○	○	○
	5	10	図形と計量 場合の数と確率		○	○	○	○
	6	9	図形の性質		○	○	○	○
	7	1	第1回考査		○	○	○	○
		計30						

	7	6	数と式	・数を実数まで拡張する意義や集合と命題に関する基本的な概念を理解できるようにする。また、式を多面的にみたり処理したりするとともに、1次不等式を事象の考察に活用できるようにする。	○	○	○	○
	8	6	データの分析	・統計の基本的な考えを理解するとともに、それをを用いてデータを整理・分析し傾向を把握できるようにする。	○	○	○	○
	9	11	総合演習	・数学Ⅰ・Aの問題演習を通じて、教科の内容理解を深めるとともに、発展的な課題に対応できる実力を養成する。	○	○	○	○
	10	1		第2回考査		○	○	○
		計24						
後期	10	10	総合演習	・数学Ⅰ・Aの問題演習を通じて、教科の内容理解を深めるとともに、発展的な課題に対応できる実力を養成する。 第3回考査	○	○	○	○
	11	10						
	12	1	計21			○	○	○
	12	5	総合演習	・数学Ⅰ・Aの問題演習を通じて、教科の内容理解を深めるとともに、発展的な課題に対応できる実力を養成する。	○	○	○	○
1	1							
2		計6						

【その他】

①予習について

・必ず解答を見ずに、まず解くこと。解けた問題と解けなかった問題を明確にし、授業で解けなかった問題を確認するようにするとよい。

②復習について

・一度答案を整理した後、解答を見ずに答案が書けるようにすること。最初は解答を写してみるなどの真似でもよいので、きちっとした答案を作ってみる。記述試験の答案は小論文と同じと考えてよい。いかに相手を納得させるかが大切となる。この力は、日頃から訓練してはじめてつくもので、ある日突然力がつくものではない。

③以下のような学習サイクルをつくること。

